

SDGsイノベーションサミットin西宮 活動報告書 (2025年2月5日)

【概要】

令和6年度西宮市大学交流協議会事業「SDGsイノベーションサミットin西宮～大学生の視点から未来を描く～」では、2024年6月から2025年2月まで、西宮市大学交流協議会加盟大学の学生が有志で集まり、西宮のSDGs推進や地域課題解決、そして、“大学のまち西宮”の活性化を行ってまいりました。今後は、有志学生による任意団体としての活動継続となります。(参加大学生:関西学院大学・甲南大学・武庫川女子大学 計15名)

【趣旨】

2030年までの達成を目標とするSDGsについて、ミクロな視点・地域での取り組みの必要性から、市内大学の充実を活かした学生間の連携により、西宮のSDGs推進、地域課題に対する新たな解決策の考案・実際のアクションに繋げること、それらを通して地域の魅力発信にも繋げることを目指します。

実際の地域課題の調査・解決という意義に加え、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念を尊重し、誰もが自分らしく住みやすいまちづくりを学生の立場から声を上げ、目指したいという「未来への共感の創出」を目指します。

【内容】

初期には市内のSDGs課題や取り組みの調査を会議し、メンバーの関心からく北部地域・食と畑・再利用)の3つのグループに分かれ、その後実際に各分野で貢献されている企業や団体へ取材に伺うという、フィールドワーク活動を実施いたしました。また、10月26日のにしのみや市民祭りにも大学ブースに出展し、市民の方々に向けて「推しSDGsポスター」「関心あるSDGsゴールアンケート」「西宮の魅力・SDGs取り組みシェアボード」等展示をいたしました。

- ・北部地域(SDGs11/まちづくり)...南北問題に着目し北部の文化振興や行政課題を調査。
- ・食と畑(SDGs2/飢餓)...市内の農家や農業塾を取材し、農業の取り巻く現状を調査。
- ・再利用(SDGs12/リユース)...廃品や遺品のリユース課程やその課題について調査。

上記フィールドワーク活動の成果発表に関しまして、12月8日には西宮市長もお招きし、成果発表会を開催し、市民の方々への発表や交流会を開催し、30名以上の方にお越しいただきました。

【経歴】

日付	名称	内容・備考
2023年6月	事業提案	プロジェクトのご提案
2023年11月	事業決定	プロジェクト決定

2024年4月	メンバー募集	市内加盟大学への広報
2024年6月	第1回会議	初回キックオフ,追加メンバー募集
2024年7月	第2回会議	企画ミーティング
2024年9月	第3回会議	グループワーク
2024年10月	第4回会議 市民祭り フィールドワーク	展示物作成 展示,アンケート,交流 再利用／北部地域フィールドワーク
2024年11月	第5回会議 フィールドワーク	ラジオ出演 再利用／食と農フィールドワーク
2024年12月	成果発表会	成果・提言発表,交流会
2025年2月	第6回会議	振り返り

【振り返り】

活動全体を通して、他大学生と協力したことで、学内のみの活動以上に、多様な価値観を取り入れて企画することが出来た。また、フィールドワーク活動により、これまでのSDGsの理念やマクロな学びに加え、より「地の暮らし」に目を向けた地域の課題を知ることが出来た。しかし、それで分かった気にならず、まだ見えていない問題を提起するために「分からなさ」に向き合い続けたい。さらに、SDGsはあくまで「出発点」として、あらゆる社会課題を広く捉え、世の中で起きていることに敏感になり、今後も私達学生が声を上げることで、「未来への共感」を創出していきたい。(関西学院大学3年)

「誰1人取り残さない」というSDGsの人権尊重の理念についてよく考えさせられました。ミクロなところには中々目が届かなくて知らないということが多かったですが、それでもそこで暮らす人はいて、困っている人がいるということを改めて認知し、細かいところまで目を張らないといけないと感じました。(関西学院大学2年)

甲山のフィールドワークを通して、自然も西宮の魅力の一つだと改めて感じました。また、市民祭りではたくさんの人と出会い、SDGsを通じた交流ができて貴重な経験となりました。これからは自分の認識や目の前の世界が全てではなく、多角的な視点で物事を見ることのできる人になれるように意識していきたいと思います。(甲南大学2年)

地域を焦点に当てたことで、西宮市の企業・団体の方々の活動を知り、地域の人々がSDGsに対してどのように感じているのか現地の人から話を聞くというのはいやほや大事な事だなと思いました。私たち外部の人たちがとらえている問題と実際に当事者の方々が感じている問題には多少の違いがあるため、しっかり問題を解決するためにも当事者から話を聞くというのは大事な事だなと感じました。また、西宮市に暮らしている小学生と交流して、現在どんな取り組みをしているのかを知ることができ、貴重な機会でした。(関西学院大学2年)

活動を通して地域の方と交流する、そして現場の方から直接話を聞くことで知る多くの学びが多くありました。「食と畑」という分野に関心を持ち取り組み、実際に生産者と消費者を繋げる活動をしている団体にお話を聞かせていただくなどしました。このような地域の中での関わりを大切にすることで日本の食料分野の課題である食品ロスや食料自給率を解決に導くことができるのでは無いかということ学びました。また、大学内だけで活動していると学生視点からの偏った意見になってしまうが年齢や性別など異なる様々な方と関わり合うことでもっと課題に対しての自分の視点から見た疑問点を持つ意識を大切にしたいと思います。(武庫川女子大学3年)

大学生間だけでなく、年齢の枠組みを超えて、地域の方々と交流できたことが貴重な学びになりました。学生生活の限りある一定の期間だけでなく、これからも自分の身の回りの生活や地域の一員として、SDGsに結びつく責任を持つ行動を心がけていきたいと思いました。(武庫川女子大学3年)

西宮市という地域に焦点を当てたことで、地域の団体や企業の活動を知ることができたり、地域の方々の声を聞くことができたりしたことで、SDGsに対して新しい見方を知ることができました。他大学との関わりも、このプロジェクトに参加して持つことができたのは非常に大きかったです。今回のプロジェクトを通して、実際に足を運ぶことの大切さを痛感しました。私は都合の関係で参加できなかったのですが、参加されていたほかのメンバーは非常に大きな経験・体験をされていました。このことから今後他の活動を行う際には、[自分が実際に足を運ぶこと]を大切にしていきたいです。(関西学院大学2年)

【成果発表会資料】※別途添付

以上